

会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回スポーツ推進審議会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和4年9月27日(火) 18時から19時55分まで
開催場所	第5会議室
出席者	会長 田中 幸夫 委員 副会長 本橋 玲子 委員 委員 中川 稔 委員 服部 啓次郎 委員 樋田 和博 委員 野川 春夫 委員 長谷川 貴広 委員
欠席者	委員 檀原 延和 委員 佐藤 里咲 委員
事務局	生涯学習部長 梅原 啓太郎 生涯学習課長 関 次郎 スポーツ振興担当課長 中島 憲彦 スポーツ振興係主査 岡本 康夫 スポーツ振興係主任 津田 理恵 スポーツ振興係主事 西村 謙太郎 ランドブレイン株式会社
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可
傍聴者数	1
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	1 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュールについて 2 第2次スポーツ推進計画の策定について 3 その他
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

なお、第1章から第3章について、皆様からの御指摘を踏まえ、読みやすいように修正しており、今後も引き続き修正してまいります。読みやすさやレイアウト等についての御意見は、事務局にメールで送付いただきますようお願いいたします。

では、御説明をランドブレインさんからお願いしたいと思います。

ランドブレイン株式会社 それでは、ランドブレインの私から、計画書の修正内容及び第4章の内容について御説明をさせていただきます。資料2の1ページ目から変更内容などがあれば御説明してまいります。

まず1ページ目につきましては、先ほども冒頭に申し上げた全体的な見やすさの変更以外の内容としての変更はない状態になっておりますので、説明を割愛します。

続きまして2ページにつきましても、計画の位置づけ内にある図のレイアウトに微修正はございますが、おおむねの内容については前回からの変更はございません。

続きまして3ページ目、「計画の対象とする運動・スポーツの範囲」につきましては、前回、「運動・スポーツ」という表記がある部分と「スポーツ」という表記がある部分と両立していた中で、この計画としては「運動・スポーツ」で統一するという内容を踏まえ、このタイトルに「運動・スポーツの範囲」とする変更を行っておりますが、ほか、文章としての変更は行っていない内容になっております。

続きまして4ページを御覧ください。4から6ページにかけての「前推進計画策定後の主な取組と評価」につきましては、現行計画の基本目標ごとの評価につきまして、文章が評価という視点での内容になっていない部分などがあるという御指摘をいただきましたので、評価という視点で改めて文章を精査するとともに、アンケートの内容から、関連する課題といったものを文章の中に加えております。それから各基本目標1から4に共通して、その視点で評価の分類・内容の精査を行っているところでございます。

次の7ページ、「スポーツを取り巻く環境の変化」の「国における潮流」及び8ページ、「東京都における潮流」、こちらにつきましては前回からの内容の変更はございません。

続きまして9ページ、「市の上位・関連計画の整理」という中で、第5次小金井市基本構想・前期基本計画の内容、こちらにつきましては、下部の施策21のスポーツ振興から始まる枠の中と目標値の

ところ、前回も、週1回以上スポーツを実施している市民の割合65%、市スポーツ施設の利用者数60万人というのは表記しておいたんですけど、それぞれの目標が、どういった実態を踏まえた中で設定した目標なのかが明確でないという御指摘がございましたので、それぞれ直近の値、現状値というところでオープンにして、市民の割合につきましては、令和元年度値が52.6%、市スポーツ施設の利用者数につきましては、平成30年度値53万6,458人を附記しております。また、こちらで記載しております市スポーツ施設の定義・対象で、以下、注釈をつけておりますが、総合体育館、栗山公園健康運動センター、上水公園運動施設、小金井市テニスコートが対象となっているという部分を補足で記載しております。

次の10ページの生涯学習推進計画についての変更は特にございませぬ。

次の11ページの「人口」の部分についても変更はございませぬ。

12ページの中段、「健康状態」の部分につきましては、下部に使っておりますグラフにつきまして、前回までは複数年の推移を載せておいたのですけれども、分かりやすさという観点から、平成13年度と平成28年のデータを比較するという簡単な形にすることで、見やすさの改善を行っております。

13ページの小金井市及び周辺都市の平均寿命につきましては、こちらでもグラフ内の小金井市に赤枠を囲み、見やすさの改善を図っておりますが、おおむね内容としての変更はございませぬ。

続きまして14ページ、15ページになります。「スポーツ活動団体、協会・支援団体」につきましては、小金井市体育協会様のところの「協会には35の協会、連盟等の競技団体やスポーツ少年団が加盟し、活動しています」という部分を補足して、前回から追記をしております。

次の16ページ、「市の運動・スポーツ資源」については、前回からの変更はございませぬ。

続きまして17ページからのアンケート調査結果につきましても、全体は特に大きな内容の変更は行っておらず、見やすさの改善を図っているところです。

ページが飛びまして、22ページを御覧ください。「新型コロナウイルス感染症拡大前後の小中学生の体力・運動習慣の変化」、こちらにつきましても内容に変化はございませぬが、先ほどの平均寿命と

同様に、グラフについて少し見やすさの改善を図るとともに、前回御質問をいただきました東京都統一体育テスト結果の内容を注釈をつける形で補足説明をしております。

続きまして23ページです。「第2次推進計画改定の視点」の部分につきましては、前回までは、下に掲げている4つの方向性から始まるような記載だったんですけれども、前段に現状の整理などを受け止めた上で、この視点を整理してあることをしっかり説明できるように冒頭のリード文を追記しております。

続きまして24ページを御覧ください。第3章の基本理念、基本目標でございますが、こちらについては、先ほど少しお話ししましたが、「運動・スポーツ」というものを両方併記する形で、今回は統一するという話に決まったところでございますので、その理念の部分ですね。「豊かな生涯を運動・スポーツとともに」及び、それぞれの基本目標の部分で該当する部分につきましても、「運動・スポーツ」という表記で統一したという修正を行っております。

第3章までの主な修正内容については以上となります。

続いて、ここから26ページ以降の第4章の内容について御説明をいたします。

第4章「目標達成に向けた施策展開」につきましては、第3章で並べております3つの基本目標が左にありますが、その基本目標に対応させる形で、施策を整理しております。基本目標1に対しては5つの基本施策、基本目標2に対応して2つの基本施策、基本目標3に対応して2つの基本施策を体系立てた上で、現在検討しているところでございます。

それぞれの施策の内容について説明しておりますのが27ページ以降となります。御説明してまいります。

まず最初の基本目標1「誰もが親しめる運動・スポーツ活動の推進」につきましては、基本施策でも対応している考えなんですけど、お子様ですとか、働き盛り・子育て世代、高齢者、障がい者及び競技として取り組まれるアスリートの方など、そうした様々な人々の運動・スポーツ活動の推進に向けた取組を、ターゲット別に取組を整理している内容になっております。

最初に1-1につきましては、「子どもの運動・スポーツ活動の推進」というものを位置づけております。内容といたしましては、主な取組でございますが、「誰もが楽しめる運動・スポーツプログラム

の実施」ということで、お子様の中には、特に今の時点で、運動・スポーツに関心のあるお子様もいらっしゃいますし、それ以外にも、今の時点では運動・スポーツをしていない、興味がないという子どももいらっしゃるかと思います。そうした両方とも、しっかり体を動かす楽しさ、運動・スポーツへの関心が得られるように、教室や大会等のプログラムを実施していくところを、この取組として想定しております。

もう一つの取組といたしまして、少し国の動きを受けた内容でもございますが、「中学校運動部活動の地域移行への対応」というところを位置づけております。こちらの考えといたしましては、部活動の地域移行は、教員の負担軽減という視点もございますが、運動・スポーツの推進という観点からいたしますと、お子様の様々なニーズに対応する多様な運動・スポーツの関わり方の機会を提供するという意味でもチャンスになるのではないかなという思いがございますので、そうしたことが実現できるよう、スポーツへの多様な関わり方の充実を地域全体で図っていくことを目指し、取り組んでいきたいと考えております。

28ページの上に、参考事例、そのほかのページにもついているんですけども、今後、こうした取組のイメージなりを皆様で共有できるように参考事例をつけていきながら、計画を充実させていきたいと考えております。

次に28ページ、1-2「働き盛り・子育て世代の運動・スポーツ活動の推進」、こちらにつきましては、アンケート調査結果でも得られた課題でございますけれども、働き盛り・子育て世代の方は仕事や育児で時間的・精神的余裕が限られ、運動・スポーツの実施が困難な方が多いという特徴がございますので、その取組としては、様々な時間帯や場所で運動・スポーツを実施できる環境の充実のほか、その限られた時間の中でも簡単に実施できる運動・スポーツの普及啓発を図っていききたいと考えております。対応する主な取組といたしまして、働く世代の方ですとか、親子、また家族といった形式で楽しめる運動・スポーツプログラムの実施ですとか、さらに実施の時間帯も、夜間ですとか、休日という参加しやすい日程・時間帯でのプログラム、初心者の方、あと、そういったプログラムなどを初めて利用する方でも気軽に参加できるプログラムの実施を図っていききたいと考えております。

続きまして29ページ、「高齢者の運動・スポーツ活動の推進」で
ございます。高齢者の運動・スポーツ活動の推進につきましては、
それぞれの持病の有無ですとか、身体機能の低下といった、加齢に
伴う心身の変化といったものに関わらず、運動・スポーツを実施・
継続できる環境づくりを中心に組み込んでいきたいと考えており
ます。そうした中で、体操やニュースポーツ等、気軽な運動・スポ
ーツの実施機会の提供を主な取組に位置づけ、推進していきたいと
考えております。

続きまして30ページ、「障がい者の運動・スポーツ活動の推進」
です。こちらの主な取組として考えております障がい者の運動・ス
ポーツプログラムの実施につきましては、まず障がい者自身に対し
ましては、体を動かすことができる範囲の違いといった特性に柔軟
に対応したイベントの実施、併せて障がい者スポーツ（パラスポ
ーツ）につきましては、誰もが実施できる多様性、インクルーシブと
片仮名で記しておりますが、包摂的な特徴もございますので、併せ
て障がいの有無を問わずに参加できるスポーツの普及も推進して
いきたいと考えております。

続きまして31ページです。「競技能力・指導力向上への支援」と
いうことで、こちらにつきましてはアスリートの方ですとか、それ
を支援される関係団体さんなどを念頭に置いて、それらに対する支
援を位置づけております。主な取組といたしましては、トップチ
ーム・アスリート等と連携した競技能力・指導力の向上ということで、
市にゆかりのあるプロチームや企業、大学等と連携した教室や講演
会等の開催による実施者に対する興味関心の獲得と競技能力の向
上、指導者につきましては指導力の向上を図っていきたいと考えて
おります。併せて、そうした指導者に関係する講習会、市で実施す
る以外、東京都や競技団体が実施するようなものにつきましても、
情報発信の支援をするとともに、近年は、そうした指導力のほかに
もコンプライアンス、行き過ぎた指導等に対する指導もしっかり重
要になってきておりますので、そうしたことがあった場合の競技者
の方などの相談窓口の情報も並行して発信を図ってまいります。

続きまして32ページ、基本目標の2つ目、「運動・スポーツを通
じた健康づくり」という内容になっております。

こちらは基本目標1との違いといたしましては、基本目標1につ
きましては、先ほど申し上げたように、それぞれのライフステージ、

ターゲット別の取組といったものに位置づけているのが基本目標1だったのですが、基本目標2は、視点を健康というテーマを設定した上での取組というところの違いがございます。

基本施策としては2つ掲げております。1つ目の2-1「健康維持・増進活動支援」につきましては、そうした様々な年齢とか、運動能力の違いに関わらず、幅広い市民の方が参加できる健康をテーマにしたイベント・教室の開催のほか、日常生活の中でも、運動・スポーツを個人で実施していく上での情報提供などを図ることで、健康の維持・増進を支援していきたいという考えで取り組んでいきたいと考えております。対応する形で主な取組といたしましては、ポールウォーキング等の健康づくりに資するイベント・教室等の開催、日常生活の職場や家庭で実施できる運動・スポーツの情報提供とか、スポーツ施設に行く以外にも、市内にある施設空間等で気軽に運動・スポーツが実施できる環境づくりの検討を行っていききたいと考えております。

2点目の「運動・スポーツに興味関心を持つ機会の提供」につきましては、アンケート調査結果の中で、これまでのスポーツ事業に対する認知度が低かったところもございますので、そこを念頭に位置づけている施策でございます。市内の運動・スポーツ施設・事業に関する情報発信を強化して認知度を高めるとともに、ふだん、運動・スポーツを実施できない市民の方が気軽に参加できる、健康を超えて気軽に参加できるところを重点的に念頭に置いたイベントの実施といったものを位置づけていきたいと考えております。

そこで主な取組として2点掲げておりまして、1点目の「情報発信の強化」につきましては、市で持つもの以外に、民間の方の媒体も幅広く活用した公・民の広報媒体の活用・連携のほか、既存の広報手段につきましても継続的に改善・充実を図ることにより、情報発信を強化していきたいと考えております。

2点目の「気軽に参加できるスポーツイベントの実施」につきましては、現在取り組んでおりますスポーツフェスティバル等の事業に対しまして一層参加しやすくなるように広報強化を検討するとともに、そのほか、様々な市内で行われるイベントなども積極的に活用しながら、運動・スポーツの機会提供、情報発信を図っていききたいと考えております。

最後に34ページ、基本目標の3つ目、「運動・スポーツ環境の充

実」に移ります。こちらにつきましては、同じくアンケートで、やはり最も求められているものとして、日常的な運動・スポーツをやる中で、実施することができる場や機会の充実が求められるところでもございましたので、それを受けた施策を整理しております。また指導や安全管理を担っていく方も当然併せて必要になりますので、その両面で基本施策を2つ掲げ、取り組んでいく考えでおります。

まず最初の3-1「安全で快適に運動・スポーツができる場の充実」につきましては、第一義的なスポーツの場となります公共スポーツ施設につきましては、市の公共施設等の総合管理計画や個別施設計画に基づいた適切な施設の管理と改善を実施するほか、有料施設という位置づけとしてのふさわしい充実を図りつつ、アンケートの中で様々ないただいた利用者の利便性を高めるソフト面の充実も検討していきたいと考えております。

2点目につきましては、それ以外の場として考えられる学校施設とか、民間施設の市民開放の推進を図っていくということで、現在も取り組んでおります小中学校の体育施設のほか、市内の企業や大学などが所有している施設の開放を働きかけていきたいと考えております。

最後は、新たな生活様式への対応という点で、新型コロナウイルス感染症予防の徹底、安心して利用できる施設づくりとともに、熱中症対策などに対する情報提供という中で、安全な設備を推進していきたいと考えております。

35ページ、体制の充実、こちらにつきましては主な取組を2つ掲げております。1点目は、これまでも連携しております市内のスポーツ関連団体のほかにも、トップチームや企業、民間スポーツ施設等との連携を充実させ、運動・スポーツの場・機会の充実や、指導・安全管理を担う人材の確保を図っていきたいと考えております。

さらに大きく掲げておりますのは、そうしたスポーツには直接関わっている方以外にも、本市の強みの豊かなコミュニティーの中で育まれている多様な団体・人材については、この審議会の中で様々な御意見をいただいているところですので、そうした団体・人材とも幅広く連携していき、体制の充実をさらに図っていきたいと考えているのが2つ目の取組でございます。

以上、第4章につきましての御説明及び1から3章の修正についての説明をさせていただきました。御審議をお願いいたします。

田中会長

ありがとうございました。

1章から3章は前回、御意見をいただいたものを微調整していただいたようですが、今回は第4章が主な議論の対象になりますけど、前半について、あるいは4章について御意見等がございましたら、挙手をして、お名前を言ってから、御発言をお願いします。

それでは御質問等がありましたら、よろしくをお願いします。

野川委員

1点、質問をよろしいですか。18ページで、坂上と坂下の地域ということで分析がされているんですけども、その後のところは、また単純集計になっているのはなぜなんですか。

ランドブレイン株式会社 前々回、野川先生から、坂上地域、坂下地域という観点でのアンケート分析の重要性を御指摘いただいて、前回、この計画書の資料のほかに、アンケート調査結果報告書につきまして、そうした坂上地域、坂下地域での調査を整理したものを加えたところがございます。その中では、今、計画書に載せている質問以外にも幾つかの質問で分析を行っておりますが、この計画の中では、アンケートの設問全てではなく、抜粋して載せている関係で、今御覧になられている1問のみに坂上、坂下の分析が入っている次第ではございます。

坂上、坂下地域での分析が要る設問につきましては、まさに地域の高低差的な違いといったものが表れる設問を分析するべきではないかという考えがございまして、この計画書の中で見られる設問につきましては、この場所に施設がないからスポーツができないと答えられる方には、そういった坂上、坂下地域としての施設の偏在ですとか、高低差が影響するんじゃないかというところから加えたんですけども、そのほかの質問につきましては、そうした地域性が出にくい設問なのではないかなということで、そうした分析を加えていないのが経緯でございます。

野川委員

そうすると、目標に向けた云々という第4章でも全般的な話になってしまって、そちらの地域で、こんなものが必要になるんじゃないとか、もっと具体的なものが盛り込まれないと、判然とこれを読んだ瞬間に、どこでもあるような内容なんです。やはり小金井市

に特化したような形のものでないと、掛け声と文章はいいけど、あまり内容は伴わないと言われてしまうような危惧があるんですけど、いかがですか。

ランドブレイン株式会社 今回の御意見に対して、御回答とまではいきませんが、説明いたしますと、坂上地域、坂下地域の分析につきまして、結構、施設数の違いもありますし、かなり特徴的な答えが出るのではないかなと思うところもあったんですけども、スポーツ施設の利用割合も極端に地域で違いが出ないなど、もともと思い描いていたほど、坂上地域、坂下地域としての違いが出なかったのがまず一つございます。

野川委員 こちらのほうから言いたいのは、別に地域差だけが説明変数ではなくて、年齢層とか、ファミリーで高齢者ファミリーとヤングファミリーとか、そういう分け方で説明変数がもっと重要なものが幾つかあるでしょうと。そういうものが入ってこないと、例えば子どもたち云々といったときに、子どもたちを持っている人たちの意見が反映されないと、持ってないというか、もうアダルトになっている回答者からいろいろ言われても、あまり意味がないんですね。説明変数はいろいろなものがあると思うので、それを上手に入れていかないと、現実的あるいは具体的な計画につながりにくいんじゃないかと思うので、それを言っただけです。

もう一点は23ページなんですけど、「第2次推進計画改定の視点」で、障がい者が盛り込まれていないんです。それなのに第3章で急に障がい者云々が入ってくるんですね。この辺は、もうちょっと整合性ないと、障がい者とか高齢者を外してやるのかいと言われる恐れがあるのではないかなと危惧します。以上です。

ランドブレイン株式会社 23ページの視点のところ、下の①から④の四角囲みには、野川先生がおっしゃるとおり、そういった言葉は入ってなくて、第3章と第4章のつながりがちょっと分かりにくいかなと思いますが、こちらは議論の中で、一人一人が自分らしく生きることができる町を目指してというところで、実はそういった方々も全て、みんな漏れなく、そういった方々がスポーツに親しめるというのを一応、市としては目指しているのが大前提としてございます。そう

したことで、次の章で、誰もが親しめるという中から、その後、第4章に行きますと、ライフステージや障がいがある方、もしくは高齢者の方々についても、施策としては入れさせていただいているのが全体の流れになっているところがございます。ですから、今の御意見をいただいて、またこちらのブラッシュアップもさらにさせていただきたいなと思いますので、検討させてください。

野川委員 別にないから、どうしろということではなくて、つながりがあるような文章でちゃんと入れておいたほうがいいんじゃないんですかということです。こういうふうに思っているとか、こういうつもりでしたという説明を受けないと理解ができないのではなく、書いてあるものでもってつながっていかないと、読んでいたら、おかしいよねと言われちゃうんじゃないかと思うので言いました。

ランドブレイン株式会社 ありがとうございます。

野川委員 もう一点なんですが、データがないんですよ。障がい者スポーツ云々ということ。そうすると、その次の第4章で、データがないのに何する、かにするというのも、ここもちょっと気になる。

中島課長 データは、アンケートを踏まえましてもう一度確認してみたいと思うんですけども、前半部分のデータを含めまして、流れがちょっとうまくつながっていない部分もあると思いますので、こちらに関しても再検討させていただきたいと思います。

野川委員 34ページなんですけど、あるいは35ページで、スポーツ関係団体等との連携を通じとか、大学等の施設云々ということでの文章があるんですけど、小金井市はどこかと包括的な連携の契約みたいなものは結ばれているんですか。

中島課長 小金井市は、大学であれば東京学芸大学や、そのほか市内大学では法政大学や東京農工大学と包括連携を結んでおります。また民間施設と申しますか、民間の学校ではございますけど、南のほうにあります総合学院テクノスカレッジとも協定を結んでおりますし、また民間のフィットネスクラブは先日、後で報告させていただきたい

と思うんですけど、最近では野村不動産ライフ&スポーツ株式会社（通称メガロス）とも包括連携を締結したところでございます。

野川委員 トップチームや企業とのというのは？

中島課長 トップチームと申しますと、私たちがF C東京の株主自治体になっておりまして、そういったところとも一応、今、様々な取組をやっているところでございます。そういったところも今回は計画書の中に、このように位置づけていただいて、しっかり推進していきたいなという考えでございます。

野川委員 ありがとうございます。

服部委員 この第4章の説明、大変ありがとうございます。うまくまとめていると思います。ただ、御説明をいただいたときの印象としては、特に主な取組の説明ですね。これが具体的な記載があまりないなと気になっておりまして、主な取組というより、これは課題を書いているように見えるんですね。こうあればいいなということが書いてあると思いました。

なぜ、そういうふうに思うかと思えますと、何とかしていきます、何々を行いますという文章の主語がはっきりしないからだなと思いました。誰がどのようにやっていくのかを、もう少し具体的な表現で書けたほうが、読んだ方に対しては訴えかけがよく通じるのかなと思いましたので、できるだけ具体例ですとか、やり方の細かい表現で書けるものがあれば書いていったほうがいいのかと思いましたので、その辺をよろしくお願ひしたいと思ひます。

中島課長 こちらの主な取組、実は細かい事例につきましては、今回載せてははないんですけど、参考事例に具体的にもっと、誰がこんなことをやっているよという形での参考事例となると思うんですけど、そこに具体的な表題と写真とリード文を入れて、読んだ人が、こういうものなんだと理解しやすい形で載せていこうかと思ひます。

こちらの全体の主な取組に関しては、主語が足りてないんじゃないかというお話をいただいて、そういった側面もあるかなとは思ひますけど、実はこちらを推進していく上で、もちろん市がやってい

くのはもちろんなんですけど、それ以外にもいろいろな方々に御協力をいただいて進めていきたいという思いもありまして、主体という意味では、ある意味、市民皆さんが主体ですし、我々の協力団体になります方々も主体となり得ると考えておりますので、そういった意味で、ここに書いてある主な取組は、そこが柔らかくなっているかなという表現にはなっております。実際は参考事例でもうちょっときちんと、具体的にもうちょっと分かるような、イメージが湧くように書いていきたいなどは考えてございます。

服部委員 ありがとうございます。

田中会長 第4章を読んでいくと、非常に耳障りがいい言葉が並んで、すらすらとは読めるんですけど、何か本当に具体性に欠けているので、何をどういうふうにやるのかなと。これは別に小金井市じゃなくても、この表書きが国分寺市であれ、小平市であれ、府中市であっても、これだったらいいなというような気がするんですね。ですから、もうちょっと、先ほどから出ている小金井市でやっているものをもっとこうするんだとか、拡大していくんだとか、そういう取組に対して、先ほどは参考事例で述べるんだといっても、それは多分1例とか、そういうものしか出ないと思うので、もうちょっとここら辺を。ここが一番肝になっていくんじゃないかと思うんですね。ですから、そこを充実させるといえるか、きっちり書いていけば、そのほうがいいと思うんですね。

例えば27ページ、中学校の部活動の対応があるんですけど、実際に部活をやっている人が少なくなった事実があるわけですよ。相まって、指導員も地域の人がやると。こういう2つの問題がある中で、具体的に7つの中学校でやってどうだったかとか。3つだったかな、忘れたけど。そういう中学校でどういうふうに拡充していくのかとか、何かもうちょっと具体的に書いていく。問題を把握しているから、こういうふうにするんだみたいに書くと、現状はこうしているんだけど、さらに拡充していくんだというような取組を、ここに書けるような気がするんですね。

例えば高齢者に関しても、これは一般的ですよ。29ページの主な取組は。健康・体力づくり云々と、こんなのはみんな、もうどこでもしているんですけど、まあ、確かにそうだよ。じゃ、小

金井では何をやるの？ と。さくら体操があるじゃないですかと。さくら体操をもっと広げるんだとか、そういう方、指導員を増やすんだとか、体育協会でやるんだとか、何かいろいろな実際にやっているものを充実させるんだとか、あるいは、もし新しいものをやるんだったら、そういうことに対して体育協会と組んでやるんだとか、体育協会が競技だけというのであれば、違う団体と組んでやっていきたいとか、そういうふうにしていただけると、これはよくなるんじゃないかなと思います。

これは全般に、例えば次に行くと、障がい者のこともありますけど、それからトップアスリート、先ほど出て来ましたよね。日本郵政グループのマラソンチーム、あるいはF C東京とか、そういう具体名を書くといいでしょう。先ほど言った大学というのも法政大学とか、学芸大とか、こんなにあって、これらと包括的な取り決めをしていますと。うちの農工大としてないんじゃないのかとか。特に体育関係は。ですから、そういう具体的なことを書いていただけると、きっとこれが、縛られるかもしれないけど、いいと思いますね。

中川委員

今、田中会長が言われた中で、自分自身、何回か言っているんですが、黄金井倶楽部さんが平成18年になってできた状態ですが、コロナの前に既に体育協会は長年、連携をやらせていただいたと。今回もコロナの関係で、市民体育祭28団体でもって競技をやっているとなると、ここに書いてあるところで、ちょっと辛いかなど思うのは、大会として初心者からトップまでのそれぞれの志向・ルールに合わせて参加できるようになったときに、競技団体が持っている、体育協会のほうが、いろいろ上部団体だとか、全日本だとか、世界につながるところがあるかと思うので、そういうところで、クラブ活動のことで話になるのか、いろいろ今回の10年たったということでの黄金井倶楽部さんとの次の協力に行けるかとなると、やはり体育協会、政府のほうでのスポーツ協会に代えてやっていこうという中では、どうも体育協会の我々としては、もっと発信しないといけないなどは思っているのです。

この前も言ったように、全国大会に9月17、18日で茨城県常陸太田に行ってきました。60歳以上でのチーム対抗、初日に負けグループになっちゃったんで、トップグループ、2位グループ、3位グループと分けて、2日目をやったんですが、そこでは、準優勝

をいただいて戻って来ているんです。そういう形で、一般の女子・男子のレベル、それから小学生・中学生のレベル、取りあえずは中学生でも神田女学園に行って、今回、全国大会で優勝しているレギュラーの子もいるわけです。そういうところでのトップのアスリートとやると、坊や、お嬢ちゃんたちが非常に燃えてくるというか、そういう機会を多く設けたいなというのは自分の思いであるのです。いろいろ市での骨組みがどうのこうのということですので、それに従って協力する方向で、どうするかは考えていますけど、内容としては今言ったようなことが……。自分自身、もう何年でしょう。40年近く、小金井でいろいろやってきた中で、そういう形で新しい体育、スポーツということで伸びていくように、みんなで力を合わせたいなとは思っています。

長谷川委員

皆さんおっしゃっていただいたように、そんなに変わらないんですけど、読んでいて、もうちょっとわくわくしたいかなと単純に思いました。

やっぱり26ページの「目標達成に向けた施策展開」のこのページ、もう少し気持ちを入れ込み書きたいというか、小金井市というキーワードが一つも入っていないところにちょっと残念だなとは思っています。やっぱり、小金井市の特徴を生かした施策にしたいというのはあるというか、この場で何回も発信させていただきました。再三お伝えさせていただきましたけど、やっぱり一般的な内容に見えちゃっています。例えば基本理念の「豊かな生涯を運動・スポーツで小金井市とともに」ぐらいに言っちゃってもいいんじゃないかなと思います。

確かに現状のスポーツ施設を考えると課題が多い状況かなと思うので、それはそれでこの中に書いてもいいんですけども、生かし切れてない小金井のよさみたいところもたくさんあると思うんです。自然豊かですし。最後によくキーワードとして出てきましたけれども、コミュニティーのよさみたいところ、豊かなコミュニティーと。これが小金井市の強みですと。こういうキーワードをもっともっと推したい、ところどころで推したい気がしますし、この「目標達成に向けた施策展開」の部分も、何か小金井ならではの基本目標だったり、基本施策で、もう少し踏み込めないかなという思いはありますね。

具体的には、さっきの大学との地域連携協定とか、それは強みだ
と思いますし、あと本当に自然が多いじゃないですか。小金井公園
にしても、武蔵野公園にしても。そこがあるところが小金井市の強
みだし、そこをうまく活用したスポーツの取組というところで、小
金井市だからできると。そういうちょっとポジティブなというか、
わくわくしてくるような内容にもう少し変えられないかなという
のは読みながら印象として思ったところでした。26ページに、何
かもう少し思いを載せたいですね。

服部委員

今の長谷川さんの意見に賛成でして、この26ページの書き方に
もなると思うんですけど、まずは目標があります。その目標対し
て、今、何が課題なのかと。ウィークポイントがありますと。それ
に対しては、こういう方策を取っていきましょうと。で、強みがあ
ります。ストロングポイントについては、それをさらに伸ばすやり
方があると。この2つの切り口を書いておいたほうが見た人にも分
かりやすいのかなと思いましたので、何かそういう工夫ができたら
いいなと思いました。

長谷川委員

小金井のよさを再認識したいというか、自分も住んでいて何となく
は分かっているんですけど、言葉で再認識したいということがあ
って、それをスポーツに絡めて、小金井市にはこんないいところ
がありますよねと、住んでいる人間として再認識した上で、こうい
うことは確かにできるねというところをもう一度、見せてもらうこ
とで、何かわくわく感が沸いてくるかなと。

野川委員

先ほど会長と服部さんがおっしゃったんですけど、やはり誰がと
なってくると、アクターという言い方、そう言った場合にスポーツ
推進委員、それから体協、黄金井倶楽部、何々と全部、ちゃんと挙
げておく。やっぱり役割分担をちゃんと決めたほうがいいと思うん
ですよ。そうしないと、多分、具体的に進まないのではないかと
思っています。

それから、目的ではなく、目標ですから、数値目標を出してい
かないと、多分、PDCAサイクルを回せと言われてたときに何もない
ぞと言われてしまう可能性があるんで、やはり数値目標を考えてい
くのが、すごい重要になるんじゃないかと思います。

中島課長 役割分担を決めてという話と、あとは数値目標を考えたほうがいいんじゃないかといったところなんですけども、第5章で、推進体制と進行管理で考えておりまして、推進体制で役割のところは書いていけるかなとは事務局としては考えておりました。

あと、数値目標ですが、前段の第3章で、成果指標を掲げておりまして、それを実現するための施策として、第4章に入っているということで御理解いただければと考えておりました。

野川委員 でも、ただ単に週1回の実施率だけでしょう。

中島課長 第3章に掲げているのはですね。

野川委員 やっぱりちゃんと立てないと。目標が明確じゃないんですよ。平成30年に東京都の基本計画を作ったときに、できるだけ数値目標を出せという形で、全部やったんですよ。一番大変だったのは都の職員。彼らが分担して全部決めた。何度も何度も私のところに来て、いろいろ話をしたんですけども。やっぱり数値目標がなくて、それで前へ進むのは、そんなことはやらないよといったのが、2000年のスポーツ振興基本計画の中で数値目標を出すことになっているんですね。それはちゃんとやらないと。これだけでは僕はちょっと弱いと思いますよ。

中島課長 基本目標ごとに、ある程度、数字はございますが、どういったところが一番最適な指標になるかをもう一回、事務局で考えてさせていただきたいと思います。

野川委員 そういうふうにしなければ、多分、8年間で何をやるのといったときに、4年目でチェックしようといったって、どこに線があるかが分からないから。ゴールがないと進めないです。だって、4年目に確認すると書いてあるけれど、どういうふうにして確認するのと聞かれたときに、皆さん、困るんじゃないかと思うんです。

田中会長 「目標達成に向けた」と書いてありますが、目標達成するために、どういうふうにしていくかを展開していくわけですけど、表現が正

しいかどうか、ちょっと分からないんですけど、ここに覚悟が要ると思うんですよ。だから、表づらはきれいな文章が並んでいて、こうします、こうしますといっても、先ほどから言われているように具体的なことがなければ、何となく8年間、もじゃもじゃと、この辺はこれぐらいしましたよねという感じになろうかと思うので、ここはこの辺までやるんだというような、先ほどは覚悟と言いましたけど、やはり具体的に70%まで、みんな、1週間1回はやるんだという目標を掲げてやるのであれば、それに向かって、各世代の人たちがどういうふうにしたらやっていけるんだろかなど。そのために、こちら側としては、こういうことが準備できて、年々、こういうふうにしていきますよ、していきたいですよというものを、ここで述べないと、わくわくもなく、ちょっと寂しい計画かなど。総花的な感じになるので。

そういう意味では、さっきから出ている小金井らしさを、ここに出しながらも、皆さん、ウィークポイント、ストロングポイントもある程度、暮らして分かっていて分かっていて。だけど、そこで再提示をしながら、ここはやっていきましょう、ここは何かならないですかねとかというものをやっていく。これは市としては書きづらいかもしれないけど、これは推進計画で、そこに具体性がなければ、マップの行き先がないようにさまようというか、あっちに行ったりこっちに行ったりしちゃうんじゃないんですかね。そういう意味では、ここまでやるよだとか、書けなくても、そういうものがにじみ出てくるようなものがあると、読んだ人は納得できるような計画になるんじゃないかなと思います。それに対して私たち委員も協力していく。これが土台になって。切り口はいいと思うんですよ。実際にどういうふうなものだろうかを具体的に示す。それでやり取りが委員会とできると思うんですよ。いかがでしょうか。

中島課長

皆様からたくさん、小金井らしさとか、こちらの文言の中で、あまりわくわくさが感じられないというようなお話を今日はいただいたかなと思います。小金井市という言葉自体は確かにこの中に直接的になかなか入れていないところがあるんですけど、細かいところでは、やはり自然豊かなどか、そういった言葉だったり、大学もたくさんありますので、大学との関わりを持った形での推進をしたいことに関しては、我々もこの中に入れさせていただいているつ

もりでございましたが、そこら辺がまだうまく表に表現できていないのかなとも思いますので、表現の仕方も含めて、こちらのリード文は再検討をさせていただいて、なおかつ、個々一つ一つの推進取組に関して実行計画をつけるのは難しいかもしれませんが、大きな基本目標について、この目標のために、こういった指標を伸ばしていくんだというようなものは何か入れていくようなものがあれば、そういったものを入れて、皆様にも、そういったところの数値を見て、これからの御審議をいただけるようにして、この計画が来年から始まった以降も、計画に則ってどうなんだという話し合いもできるようなプランにしていきたいとも思いますので、またそこは再検討させていただきたいと思います。

田中会長

今後の施策を展開していったって、野川委員からも出ましたけれども、やはり、この計画を8年間やりますという中で、8年間の目標と、途中で4年たって、半分たったときに、どこまで行っているのかを、進行管理という言葉が出てきましたけれども、そういうものを想定して、この4章を作っていくかといけないと思いますね。ですから、全体でここまでやりたいと。先ほど覚悟と言いましたけど、ここまでやりたい、やるんだというものに対して、4年たった、5年たったときに、どこまで行っているんだろうというものがある程度ないと、やはりうやむやになってしまうんですね。つまり逆に言うと、この計画が推進されない。目標がないと、いいんじゃないの、この辺でみたいになっちゃう可能性がありますよね。作るだけ作って…。頑張ってお金を漕ぐと。あそこまで行くんだというお金を漕ぐ力が必要。ぼんやりしながらやって、この辺でいいかでは、もったいないと思うので、その意味では、ある程度というか、8年後はどこまで行くんだというのを見据えた上で、チェックポイントを作って、そのための施策を見ながらやっていかないと、もったいないと思います。その辺も視野に入れながら、作ってほしいなと思います。

これは市のほうで、いろいろなチェックもあるかもしれないんですけど、それは細かくは見ないんでしょうけど、やはり、この推進計画を推進するに当たって、ある程度の自分たちの8年の計画であるとかというのがあって、現状を踏まえた上で、ここまで到達できたら100点満点、到達できなくても及第点まで届くように頑張る

うとはできるんじゃないかなという気がするんですね。ですから、ここら辺を頑張って作るべきじゃないかなと思います。

文章のどうのこうのとか、つながりとかは、それは後でも直していけばいいわけで、そここのところが小金井らしさ、ここがうちの肝だよというのを、どこかきちんとしていただいて提案していただくか、あるいは、ここはどうしたらいいんでしょうかと、みんなに振っても、皆さんは経験豊かなので、いろいろ経験していると思うので、そこから意見をもらえらると思うんですね。

中島課長 今、8年間の目標、覚悟という言葉をいただきました。またチェックポイントも作ってやったほうがいいんじゃないかというお話もいただきました。その辺を踏まえて検討させていただきたいと思います。

田中会長 本橋さん、何かありますか。

本橋副会長 確かにすごく素晴らしい計画書なんですけど、皆さんが言われるように、確かに、これをやればいいんだなという気持ちが出てこない。したがって、これをやりますというの、細かく、何をやればいいかを載せていただけると、参加するほうにとっては先が見えてくるのはすごくいいことなんですけど、そここのところを出していただけるといいかなと思います。皆さんのを聞いていると、確かに言葉は大事なんだなと思いますし、みんなが分かるようにするには具体的な例示や何かがあると分かるんじゃないかなと思います。以上です。

田中会長 田中です。ふと思ったんですけど、これは具体的に書くのは大変だと思うんです。でも、普通であれば、1-1の工程表、1-2の工程表みたいなものを別枠で作る手もあるかなと思いましたけど。こういう計画書は表向き、具体的なものを少しずつ入れてやるんですけど、本当に本気でやるといったら、工程表みたいなものを作って、1-1とまでは行かなくても、基本目標1のみんなが楽しめる活動をやるには、どういう工程で行くんですかと。それは誰がやるんですか。いつまでにやるんですか。今年は誰がやるんですか。どこまでやるんですかというようなものがある程度作る。工事現場じ

やないですけど、物を建てるには設計図と工程表がないとできないわけですから、やるとなると目標が要るのは、そういうことです。

それとあと、お金も要りますよね。体育協会に、これだけのことをやってくださいと。黄金井倶楽部は、これだけやってくださいと。そのためには議会に、こういうのを推進するために、市民の健康を維持・増進するために、こういうことをやらなくてはいけないんだと。だから、今もやっていますが、もっとお金が要るんですと。市に建物がないから、ソフト部分にお金をかけないといけないと。そういうふうにしていくことになると思うんです。それには具体的な目標が必要になる。でも、そのときに目安がないと、ただお金をくださいでは、誰もお金をくれない。予算を増やそうとしてもないと。こういうことをやりたいがために、これだけのことをしますから、これだけの予算を計上してくださいと。こういうふうになると計画が実行されていくと考えるので、やはり工程表みたいな、そういう考えはあっていいかなとは思っています。

野川委員

別な区とか市で、こういう委員会があったときに、区民とか市民にとって、どれだけ魅力があるかで、流出人口をできるだけ少なくして、流入人口を増やすというふうな言い方があるんですね。小金井市に行ったら、健康的にもなるし、仲間が増えて、いろいろなことができる。まあ、全部はできないにしても。小金井市の魅力をスポーツとか、運動とか、イベントみたいなものを核としながら、よそから呼び込まないと、これから20年間で人口がぐっと減っていくところも出ているんですね。そういうことも含めて、ただ単にスポーツを推進して、ああだこうだという言い方ではなくて、いろいろなところから小金井市に入ってもらおうよと。より魅力的な市にするために、スポーツとか運動やなんかは中核の1つなんだから、その辺のところを充実させたほうが良いという論法だと思います。そういう論法でいかないと、費用対効果からすると、出るものは多い、入ってくるものはほとんどないから。金銭的には。健康という形で医療費の削減につながるかもしれないし、いろいろな意味での幸福度が上がるかもしれないし。何かそういう視点をもうちょっと入れていかないと、ただ単に運動して体力が上がって、ちょっと仲間と仲よくなったと。これだけじゃ足りないと思うんですよね。そ

んな視点ももうちょっと入ってくると、もうちょっと、わくわくが出てくるんじゃないかなという気がします。

中島課長

今、野川先生から、魅力ある町にする。そのための指標といますか、例えば流出減・流入増にするために、福祉だけでなく、例えば医療費を下げられるとか、そういったものがあって、幸福度を最大限にしていくことで、市の魅力を上げていくのに、運動・スポーツ、そういった施策が重要だとの御説明があり、どうもありがとうございます。そういった視点が、この計画の中で書き切れていないかなと教えていただいて感じました。どういうふうに入れるかは今すぐ答えられませんが、検討させていただきたいと思います。

また田中会長からも、こういった計画なので、例えば基本目標1に関してのスケジュールなりも入れて考えたほうがいいんじゃないかということはおもったお話かなと思います。具体的には、こちらの計画自体は、小金井市のスポーツの計画としては、ある意味、一番上の計画になると思いますので、実際、個々の施策に関しましては、我々が仕事をする上では、そういったスケジュールを作って行きたいとは考えていますので、そこに関しては、もうちょっと大きな形での計画の策定ということで作っていききたいと事務局としては考えております。

田中会長

樋田委員、何か感想、御意見はございませんか。

樋田委員

途中から参加させてもらったんですけど、ふだんの仕事のとどこかでもそうですが、何々をしたいと思いますという、何を、いつまでにどうするとしたほうが、具体的に目標に近づいて行けるのはあるので、それでいいかなと思うんですけど、ただ、それを何にするのかということで、小金井市だから、これをやったらいいんじゃないかというものが、結局、最初に言っていたデータとして見えてきてない状況で、そこを確定するのはちょっと難しいのかなと思っています。例えば高齢者向けのスポーツ関係のイベントを年間何回とか、どういうふうにしますよとか、こういった大学と提携してやりますよとしても、それが本当にいいものなのかどうかは、アンケート結果からはなかなか難しい。それが立証されているから、これをやっていますと言うのはなかなか難しいかなと思います。

田中会長

そのほか、何かありますか。

長谷川委員

確認ですけれども、ちょっとこだわりすぎかもしれませんが、4章の内容は、今日のフィードバックを踏まえて、まだ変えられるんですね。変える余地がある段階ですね。ぜひそこを我々としてもお手伝いしたいですし、本当にこの基本目標が全てかなと思うんですけど、特に順番の並べ方としても、基本目標1で、自分の気持ちだけで言っちゃいますけど、本当に僕は小金井市をもっと推したいんです。小金井市ならではの施策があって、2、3はある程度ゼネラルな内容であってもいいかなと思います。目標を見る側からして、小金井市に住んでいるから、こんないいことが目標として立てられるんだなというところで、1番目の目標で、まずわくわくしたいし、かといって、やっぱりゼネラルにやらなければいけない施策なんかもあると思うので、2、3があってもいいんですけど、2、3は、まあ、確かにそうだよなというところで、参考までに見ておこうかみたいな腹づもりで見える感じと。自分の見方だけかもしれないんですが。ここの内容をもう少し、小金井でわくわくする内容に変えるとともに、我々としても、我々と言っていいか分からないですけど、私としても力を入れたいですし。今日持ち帰っていただいて、また再検討という流れなのかもしれないんですけど、一緒に考えるところとかも含めてお手伝いできるのであれば、そこは積極的にやらせていただければなと思います。

それが一つと、あともう一つ、この内容に含められるかどうかはさておきなんですけど、データの取り方をアナログからデジタルに変えられますかね。今回の施策とか取組を通して。やっぱりアンケートの取り方がまだアナログな形で、データの正確性を取っていくためにも、もうちょっとデジタルに切り替えて、何かウォーキングをアプリでやるなりして、そのウォーキングに参加している人のデータをそのまま使うみたいなやり方もあると思うし、アンケートが本当にいいやり方かどうか分からないんですけど、やっぱり正しくデータをより把握した状態で、新しくしたいんですけど、取り方から含めて、そうやってしまえばそうなんだけどというデータなんですけど、それを前提に推し進めていって、その集め方というんですか、現状把握の仕方みたいなところも、この活動を通して

なのかは分かりませんが、変えていけるといいかなと思いました。ちょっとスポーツとは違う観点の取組になっちゃうかもしれないんですけど。

田中会長 いかがですか。今の観点は、例えば、ここにあることはある程度やるにしても、今後、そういう取り方にしても変えられる可能性があるわけですね。そういうものも、要するに今後、進行管理というので、チェックポイントというのは、そういう点からでもできるようにしていくことも考えられますね。

長谷川委員 そうですね。

田中会長 だから、そういう視点を持ってないと駄目なんで。この間、ちょっと打合せで出たけど、今はデジタル時代で、皆、スマホでアンケートでも何でもやりますよね。簡単に何かに申込みするときに往復はがきでというのはいっぱいあるんですけど、往復はがきを買ってきて、何かイベントに参加しますというのは、やっぱりハードルは高いと思うんですね。そういう意味では、何かに参加するのに、往復はがきでお願いしますというのは、「えー」となっちゃいますよね。まずその時点で。だけど、ホームページに、ここから入ってねとか、ここで参加できるかできないかがメールで来るとかというのであれば、みんな、ピピッとやって、今日はどこでイベントがあるよねというのが来るといいですよ。だから、そういうのも本当はどこかに入っているといいと思うんですね。

長谷川委員 今取ってあるデータに対して、何か施策をやったことで改善を図って、そこをまた測定するということだと、また同じやり方でやるのが一番分かりやすいでしょうけども、またそうすると同じやり方の繰り返しとなっちゃうので、データの取り方そのものの見直しも並行してやっていけるといいのかなと個人的には思います。

中島課長 長谷川委員の御意見をいただきましたが、まず第4章の全体的には、今日、審議で大分意見をいただきましたので、これから今日いただいたもので修正をかけていこうと思っているんですけども、長谷川委員の御意見は、どちらかと言えば、第3章の基本目標をちょ

っと変えたいというお話かと思います。

長谷川委員 確かにそうですね。

中島課長 はい。この基本目標は、一応、前回御審議をいただいて、この方向性でということでしたもので、第4章は建てつけをこのように基本施策を1、2、3と作らせていただいたのが今回の経緯になります。なので、文言の表現の工夫とかでは皆様から御意見をいただいて、また皆様にも御承認をいただいて変更することは可能となっていると思っておりますので、ぜひ御意見をちょうだいできればなと思っております。

あと、データの取り方なのですが、今持っているデータが基本的には例えばアンケートで持っているデータとかが今持っているデータになりますので、今持っているデータから比べていくことになる、今と同じような取り方にはなってしまうかとは思いますが、新しくデータの取り方自体も考えていったほうがいいんじゃないかという御意見でございましたので、こちらは例えば来年から、それを始められるかどうかは、正直なところ、どういったデータかが分からない中でのお話ですので、例えば令和8年からは、そういったデータを積み上げていきましょうとか、12年終わりまで、そういったデータで見に行って、今度の第3次の計画には、そういうのを反映させていきましょうかというような考え方は一つあるのかなとは思いますが。なので、そういったところを、まずはこの計画は先にはできてしまうんですけども、計画を進める中で、そういった新しいデータ、指標の考え方を追加していくのは一つ、新しい考え方としてあるかなとは事務局としては思っております。

実際、この基本目標を皆様で、例えば小金井らしさを入れたような形で、もうちょっとブラッシュアップしていきたいとなった場合に3章の変更となるんですけど、例えば皆様から御意見を、もうこんなお時間ですので、例えばメールか何かで頂戴させていただいて、またこちらで皆様にお知らせしてみたいなやり取りを、この先の審議と並行してやらせていただくというような方法はいかがでしょうかという事務局からの提案なんですけども。

田中会長 皆さんに、どうぞと言って、それをまた集めて、またみんなに、

どうぞと返して、この審議会に持ってくるよりも、思ったんですけど、例えば長谷川委員に思い入れがあって、ここのところは自分がやりたいということであるのであれば、皆さんも承認していただければ、例えば長谷川さんと私、副会長で、長谷川さんが作った文章を見て、そちらも見て、それで4者で意見を言って、それを次回に持ってくるみたいな形でもいいかなと思いますけど。みんなに投げかけて雑多になってしまうと、まとまりがつかないことはないとは思いますが、ある程度の期間、人手を入れて、それでやり取りをしてというほうがいいんじゃないかなと考えますけど。

中島課長 今、会長がおっしゃられたようなやり方で進めさせていただければありがたいなと思います。皆さんの御承認をいただけるのであれば、そういう形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

田中会長 どうですか。よろしいですか。

長谷川委員 もう一回、討議したいなど。内容的には。みんなで知恵を出し合うところからもう一回始め直して、そこで得られた結果から、もう一度整理をし直しましょうというところからやりたいぐらいな感じなので、そのやり方としては、メールで個別にまいたりするよりも、みんなで集まって、もう少しフランクに話をしたほうが整理しやすいんじゃないかなと個人的には思いますけど。

田中会長 ベースの形は変える必要はないと思うんです。例えば基本目標であるとか、そういうものはいいと思うんですけど、ただ、その説明文であるとか、第4章の書き方は、やはりもうちょっと皆さんがおっしゃっているような、小金井らしさであるとか、具体性であるとか、そういうものが盛り込んである形になると、よりよいものになっていくと思いますので、どこかで顔を合わせてやったほうがいいかなと。1週間後か、10日後か、2週間後かは分からないですけど、それで見せ合って話をして、また文章を作って、まとめて、ここに出すと。それと別に5章を作っていたらという気がするんですけどね。こんな感じでよろしいでしょうかね。

長谷川委員 今一番、力を入れるべき時だと思いますので、この基本計画を立てるところが、一番、思いを寄せられる場所だと思うので、そこに思いをしっかりと入れられるかどうかで今後が大きく変わってくると思うので、そこは最大限協力させていただきたいと思います。

田中会長 よろしいでしょうか、そういうことで。はい、どうぞ。

野川委員 野川です。ちょっと私、びっくりしたんですけど、8年後に、小金井市の小中学生が現在より1,800人ぐらい増えるというデータがあるんですね。小学生が大体1,300人ぐらい、中学生が500人増えるというデータが小金井市から出ています。ちょうど8年後ということなんで、だんだん増えていく中で、子どもたちを本当にどうするという一丁目一番地ですよ。この基本目標の1-1。このところをもっと具体的に、これからこれだけ増えていくんだから、どうするというのを、できるだけ具体的な文章を入れてもいいんじゃないかということが1点です。

そういうデータがあるのであれば、高齢者がどのぐらい増えるのか。認知症患者がどのぐらい出そうだというのが多分あるはずなんで、そういう人たちに対して、どうするというふうに、もっと具体的に書けると思うんですね。そういうデータをぜひとも入れていただきたいと思います。

田中会長 それこそ小金井の現状を、将来にわたって見ながら、計画ができたらいいですね。

そのほかに何かございますか。

ないようでしたら、推進計画のことは、これぐらいにしたいと思います。

続きまして、「その他」ということで、事務局から幾つかあるんですね。お願いします。

津田主任 事務局から御連絡いたします。

来年度の審議会について、4回程度の開催を想定して予算要求する予定です。日程は4月、7月、10月、1月の予定で、具体的な日程は、後日、調整させていただきます。

こちらで何か御意見等はございますでしょうか。

中島課長

今言った時期は、市議会の定例会が、通常ですと3月、6月、9月、12月とございまして、そこを外したような形での、その1か月後みたいな形で今、仮に設定をさせていただいているところでございます。実際は市議会が必ず、その月にやっているわけではないので、場合によっては、その年によっては変わる可能性もあったりとは想定されます。が、四半期に1回やるという形です。今年度は2か月に1回程度行わせていただいているところでございますけど、ここ最近では毎月やらせていただいているところなんですけど、来年は四半期に1回程度の形で定例的にやらせていただければなど考えておりますので、事務局から、先ほどのような日程にさせていただきました。

田中会長

令和5年までやらないといけないんですけど、了解しました。

中島課長

では続いて、私から2点ほど、皆様に御報告をさせていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、本市が新たに締結しました包括連携協定について御報告をさせていただきます。

令和4年8月30日に、野村不動産ライフアンドスポーツ株式会社（通称メガロス）と包括連携協定を締結いたしました。メガロス武蔵小金井は、JR武蔵小金井駅北口から東へ徒歩6分の位置にございます民間のフィットネスクラブになります。エリア最大規模を誇るプール等を備えているジムになります。メガロス様は「健康の新たな価値を提案し続ける企業」「顧客満足を感じと喜びに変える」を企業理念に、スポーツクラブ事業の枠を超えた生活全般にわたるサービスの提供を行い、日々の生活と人生の充実に寄与する企業を目指してまいります。

連携協定の内容ですが、5点ございます。まず1番目、スポーツ振興及び健康の増進に関すること。2、子育て・子育て支援の推進に関すること。3、高齢者福祉及び障がい者福祉に関すること。4、産業及び地域経済の振興に関すること。5、その他地域活性化及び市民サービスのさらなる向上に資する取組に関すること、となっております。

具体的な取組はまだこれからとなりますが、スポーツを基軸とし

た取組は、運動・スポーツができる場の充実だけではなく、様々な可能性があると考えております。スポーツ推進計画の中でも、今回、この中に施策として具体的には書いていなかったんですけども、例えば参考事例など、そういったところで御紹介させていただければと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

続きまして2点目、令和4年第3回小金井市議会定例会について、スポーツ振興担当関連の陳情が2件提出されておりますので、そちらの御報告をさせていただきます。なお、本定例会は現在も開催中でございます。

陳情のまず1つ目なんですけれども、審議会委員の選出において、いびつな男女共同参画理念の援用停止を求める陳情書と、あともう一件、補助金交付団体の現役役員を審議会委員に登用しないことを求める陳情書という2件が提出されております。この2件について市議会で御審議いただいております。

この2件につきましては、引き続き市議会で審査する必要があるとされ、継続審査となっております。そのため、まだ審査は続いている状況でございます。また審査の結果が出ましたら、改めて本審議会で御報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

細部につきましては、説明を今日は省略させていただきますけれども、ユーチューブで録画配信なども行っており、また会議録も間もなくホームページにアップされることと思われまますので、そちらを御覧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

報告は以上となります。

田中会長

これに関して質問とかはよろしいですか。
そういう陳情が出ているということですね。

中島課長

審査中です。

田中会長

分かりました。
そのほか、皆さんのほうから何かございますでしょうか。
本日の議題は全て終了いたしましたので、第4回のスポーツ推進審議회를終了させていただきたいと思っております。
本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

— 了 —